

## JCI カーボンプライシングに対する提言への回答

一社) エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議

エネ経会議としては提言の趣旨に異存はありませんが、会員の間での理解とコンセンサスづくりには至っていないというのが正直な実態であり、会として全面的な賛意を公に表するのは時期尚早であるかと考えます。

そもそも大多数の中小企業では、カーボンプライシングに対する認識もきちんとできていないし、どう取り組むかも検討されていないのが実情でありましょう。

そのような状況下において、単に義務化を前に打ち出すことは、逆に反発を買い、前進の妨げとなる危険性もあると考えられます。

エネ経会議としては、まずは、会員に対してカーボンプライシングとはどういうもので、なぜ必要かについての啓発を進めてまいります。

そして、並行して、その本来の目的である炭素排出量をどう減らすかについての具体的な支援策を講ずることを国に要望していきたいと思えます。支援策としては例えば、中小企業に対し省エネ診断を義務化し、その診断に基づいて施策を実施する場合には補助金で優遇するなどの策も有効であると考えます。そのための原資としてカーボンプライシングでの税収入だけでなく、政府が考える GX20 兆円の一部を充てることも十分考慮に値するものと考えます。

いずれにしても、エネ経会議としては今後議論を重ね、エネ経会議として発信すべきと内容を早急にまとめていきたいと考えております。JCI とどう協働していくべきか？どう発信するか？について協議させて頂ければ幸いです。